

国鉄改革完遂！  
当たり前労働運動  
を前進させよう！  
JR 東海労に  
結集しよう！

J R  
東海労

静岡

J R 東海労働組合静岡地方  
本部  
〒420-0851 静岡市黒金町  
19-1  
J R 063-3518  
N T T 054-284-3608  
発行責任者 木下孝尚  
2008年1月1日

新年号

謹賀新年



## 労働組合の原点にたち弾圧を跳ね返し人間らしく労働者らしく生きよう！

名峰富士は、多くの人々に感動を与え信仰の山として崇められていることはだれでもが知っている。風雪に山肌は削られた造形美である。今日、世界遺産への登録する運動がすすめられている。この自然の美しさを残そうと零下の中日も上らぬうちにカメラをかまえる写真家は少なくない。厳しい自然だからこそ、その美しさは感動を与える。策略や計略には美しさも感動もない。しかし、策略を講じた権力者は喜びを感じるのである。権力者の欲望が孫子の代の自然と人間社会を変えている。地位と欲望のために悪事を尽くすのは権力者である。目の前の欲望や安楽に目を奪われ未来を見失ってしまっはいけない。実施された社員運用や主任レポートは、J R 東海労破壊のために使われている。

「もともと上流階級は、人間には上下や貴賤や貧富の差別があるのを当然だと思い、それを秩序と呼んで、国民すべてがその秩序に服するように要請しています。ですから人間の平等を唱える者はすべて秩序を乱す過激思想の持ち主として抹殺される・・・おなさをすぎる、さもしい根性を起こさず働く自分たちこそ人間だと、胸を張り、足並みをそろえて社会変革の大道を歩み出したらどうでしょうか」これは明治から大正舞台となった小説「橋のない川」(住井 すす作)の一節である。時代は変わっても「デッチ上げ蒲郡事件」や「えん罪 J R 浦和電車区事件」のように労働者への弾圧は変わっていない。不条理な世の中は、自らが闘わなければ変わらない。働くものは世の中の、主人公になるために、弾圧に屈することなく闘おうと訴えている。今年も職場と侵された自然と人間社会を変えるために権力悪とたたかおう！

J R 東海労働組合 静岡地本執行委員長 木下 孝尚